



奉仕しよう

みんなの人生を豊かにするために

広島東南ロータリークラブ 2022年6月20日（第2833回例会）

例会日 月曜日 ANAクラウンプラザホテル広島 TEL241-1111

事務所 リーガロイヤルホテル広島13階 TEL221-4894

会長 要田 昭治 幹事 森原 弘昌

6月は「ロータリー親睦活動月間」です。

6月ロータリーレート 1ドル= 127円



本日の例会

12:30 点 鐘

ロータリーソング「それでこそロータリー」

来客紹介 (親睦委員会)

12:45 会長時間

(要田会長)

幹事報告

(森原幹事)

委員会報告

・出席報告

(出席担当)

・その他

同好会報告

S.A.A.

13:00 プログラム

13:30 点 鐘

会長時間

幹事報告

○例会終了後、次年度クラブアッセンブリー開催
(3F カトレア)

本日のプログラム

「新入会員卓話」 横川真也会員

次回例会（6月27日）

「最終夜間例会・懇親会」

お知らせ

他クラブ例会変更・休会情報

6/21 (火) 広島西南RC

6/22 (水) 広島東RC・広島陵北RC

6/23 (木) 広島西RC・広島安佐RC

6/24 (金) 広島城南RC

6/27 (月) 広島中央RC・広島廿日市RC

6/28 (火) 広島西南RC

6/29 (水) 広島東RC・広島陵北RC

6/30 (金) 広島北RC・広島西RC

広島安佐RC

今後の予定

○次年度第2回クラブアッセンブリー

と き 6月20日(月) 例会終了後～

ところ ANAクラウンプラザホテル広島

対象者 次年度理事役員・各リーダー

○最終夜間例会・懇親会

と き 6月27日(月) 18:30～

ところ ANAクラウンプラザホテル広島

○臨時総会

と き 7月11日(月) 例会時

ところ 例会場

議 案 ①2021-2022年度事業報告

②2022-2023年度事業計画

6月13日 累計1,513,000円 (本例会 17,000円)

ニコニコ箱

○要田昭治:6月第二例会 沢山のご出席ありがとうございます。また、昨日のグループ6・7合同のインターンティーミーティングが開催され、中村IM実行委員長、森原幹事、守下・渡邊両副幹事、実行委員会、そして会員の皆様のご協力で成功裡に終わりました事、感謝申し上げます。

* 温泉川ガバナー補佐のシャンソンで会場が大いに盛り上がりました、味のある歌声でありがとうございました。(5口)

○温泉川梅代:昨日IM無事終わり、ホットしています。ありがとうございました。これでガバナー補佐の仕事ほぼ終わりです。(5口) →IM実行委員長より 中村伸弘(5口)

○森原弘昌:昨日はIMにご参加・ご協力いただき、ありがとうございました。(1口)

○見正伸也:昨日はIMが大成功で終わることができ、実行委員としてほっとしました。後は報告書を責任を持って取り組ませていただきます。(1口)



外科医の独り言

今回の卓話でお話しさせていただいた内容を、どうもうまく文章に起こせそうにありません。そして、Keyになるスライド也没有ありません。つきましては、外科医の独り言を書くようになった経緯をまとめて卓話の抄録に代えさせていただきます。

とにかく幼少時より本を読むのも文章を書くのも苦手でした。母親は国語の先生だったのですが、その素因を全く引き継いでいません。もちろん努力が足りなかったことも認めます。国語が苦手なことは高校、大学受験では致命的でした。とにかくちょっと難しく長い評論文になると、何度も何度も読み返さないと頭の中に入らず、いつも時間切れで解答欄のすべてが埋まることはありませんでした。当然、高校・大学受験の模擬試験で、国語の偏差値が50を超すのは夢のまた夢でした。

医師になっても、自分の文章力のなさや乏しい語彙力に悩まされ、気の利いた文章を書こうとすると完全に思考停止していました。ところが45歳の時、大学病院外科の医局長を拝命し、私の嫌いな様々な原稿書きの仕事が教授から回ってきました。私はそれを「雑用」と呼んでいましたが、当時の教授から「雑用に無駄な仕事はない、将来必ず役に立つ」と言われ、3年間せつせと挨拶文や原稿など様々な文章を書き続けました。気の利いた上品な文章は未だに書けませんが、確かに文章を書くのが苦にはならなくなり、教授が言われるように「雑用」をやり続けたことが役に立ったように思います。

そして51歳の時に、現在の県立広島病院の外科主任部長として赴任しました。53歳の時に当時の院長から病院の広報委員長に指名され、それまで3か月に1回発行していた病院の広報誌「もみじ」を、「どうせやるなら毎月出すぞ」と息巻いて、「外科医の独り言」という1,500字余りの独り言を毎月書く羽目になってしまいました。当初は、半年くらいで止めるつもりでしたが、意外と好評？で止めるにやめれなくなって今年で11年目、締め切りに追われながらも毎月書き続けて、気が付けば第127話になっていました。国語が大の苦手だったはずの私が、医局長を務めたおかげ？でコラムまで書けるようになり、医局長に指名していただいた当時の教授には感謝の念に堪えません。

実は、この独り言を書くにあたって秘かに決めていたことがあります。ちょっとでも医療に関係がある事を書く、空想ではなく、事実あるいは経験したことを書く、最後に軽いオチがある、でした。そしてこの独り言を読まれた医療従事者の方々や患者さんから、「よくこんなに書くネタがあるね」と言われるのですが、ネタではなく事実しか書いていません。この独り言を通じて、造られた医師の虚像に反発し「医者も人間」であるということを訴えたかったのかもしれませんが、また、外科医として約40年間働き続けられたことに感謝の気持ちを込めて書いてきました。

毎月書いたと言いましたが、実は2019年1月号にだけ独り言が掲載されていません。2018年11月30日、いつもこの独り言を楽しみにしていた母親が急逝し、そのドタバタの中でなんとか締め切りに間に合わせて原稿を書いたものの、やはり気もそぞろで、魂がこもっていなかったのか最後のオチも浮かばず、結局原稿をボツにして掲載をお休みさせていただきました。今その原稿を読んでもひどい内容で、掲載しなくてよかったとホッとしています。その1回を除けば、ちゃんと締め切りを守って先月までに合計127話をせつせと書き続けました。そしてこの度、その中から51話選ばれて本になりました。私が選んだわけではなく、編集者さんの好みで選ばれた話が載っています。まあ、私にとってはどれが良い悪いはなかったのですが、順番も含めてすべて編集者さんにお任せした次第です。あまりこだわりはありません。

前回2022年6月13日例会

「新入会員卓話」

板本敏行会員

独り言を書き始めて5年くらい経った頃から、本にすることを多くの方々から勧められましたが、人のためになるような内容ではないことは自分が一番よくわかっていたので、そのような妄想は頭の片隅にもありませんでした。ところが、これを中高生に読んでもらえば医療に関心を持つきっかけとなる、という編集者さんからの想定外の屁理屈に背中を押されてしまいました。本当にこれで若い人たちに関心を持ってもらえるのであれば、これほどうれしいことはありません。そして、この独り言のもう一つの特徴は、私の稚拙な文章を面白くしてくれた絶妙なイラストです。第8話から本文の内容に合わせてイラストを描いて頂いた事務のHさんの労に報いなさい、という天の声も私の背中を押したのです。このイラストがなければ、本当に単なる独り言になっていたでしょう。本にもHさんのイラストがふんだんに載っています。

もちろん本は自費出版ですので、病院に迷惑をかけることはありません。万が一、この本が売れて、増刷が追いつかなくなるような事態が発生した場合には、私とHさんに印税が入ってくることになりますが、その際には全額病院に寄付することを二人で決めています。まあ、その心配はなさそうですが、Amazonでも注文できます。ということで今回は本の宣伝となり、申し訳ありませんでした。



6/12（日）G6・7 合同IM開催

報告：副幹事 渡邊直樹

6月12日（日）午後2時より、ANAクラウンプラザホテル広島において、2021-2022年度国際ロータリー第2710地区グループ6・7合同インターシティ・ミーティングが、「凜として」をテーマに開催されました。

コロナ禍において、前々年度、前年度と2年連続中止となっていた状況を受けての、今回のインターシティ・ミーティングは、当クラブが輩出した温泉川グループ7ガバナー補佐を主催者とし、また、当クラブとしては2008年以来の主管となる、当クラブとして必ず成功させなければならない重要行事。

当初予定されていた2月27日（日）の開催は、年初からのオミクロン株の感染急拡大を受けて実施困難となってしまいましたが、要田会長の実施に向けた熱い思いのもと、中止でなく延期とした上で、あらためて日程を検討し、まさにここしかない、というピンポイントの日程調整が実現。

そして、会員の学びだけでなく、会員同士の交流もインターシティ・ミーティングの大きな目的であるとの中村実行委員長の信念のもと、感染防止対策も十分に検討した上、懇親会も含めたフルコースの内容での、実に3年ぶりの開催にこぎ着けることができました。

「女性がより活躍できる多様性ある組織・社会をどうつくるか」とのテーマによる村木厚子様のご講演は、現在の日本の女性に対する統計を示したグローバルな難しいお話から、勾留されたときの手錠の正しいつけ方や勾留中の買い物の仕方まで、本当は悲観的になってしまいそうな場面を面白可笑しくお話しされ、その場その場の大変な状況でも好奇心を持って良い方向へ導く考え方に皆さん感銘を受けたのではないのでしょうか。

引き続いて行われた懇親会では、参加者の皆さんが久しぶりにクラブを越えて懇親を深める中、温泉川グループ7ガバナー補佐が「ケ・セラ・セラ」のメロディーに乗せて伸びやかな歌声を響かせるなど、大いに盛り上がったまま、最後は、手に手をつなげる日常が戻ることを夢見ながら、手に手をつなぐにみんなが輪になった「手に手つないで」でお開きとなりました。

会の進行を一手に引き受けた感すらある温泉川ガバナー補佐と、それを支えた大井ガバナー補佐幹事。

熱い思いで3年ぶりの開催を無事に成し遂げた要田会長をはじめとする正副会の皆様。

会員の学びも会員同士の交流も見事に実現して見せた中村実行委員長をはじめとする I M 実行委員会の皆様。

そして、当日、受付・講師や来賓のアテンド・会場設営など、各チームにて、ときに突発的なトラブルに臨機応変に対応し、また、チームによっては1日中立ちっぱなしで、このインターシティ・ミーティングを成功に導いていただいた全ての会員の皆様と事務局の高谷さん（残念ながら当日、無念のご欠席となった皆さんも、当日の無事と盛会を祈っていただいていたことと思います！）。

本当にお疲れ様でした、そして、ありがとうございました。

今回のインターシティ・ミーティングを通じて得た経験、そして、クラブ全体の結束をもって、来たる次年度も、ロータリー活動に邁進して参りましょう！

